

〔報告者〕

○鈴木 恵美子（すずき えみこ）

公益財団法人千葉市国際交流協会 主任主事



<プロフィール>

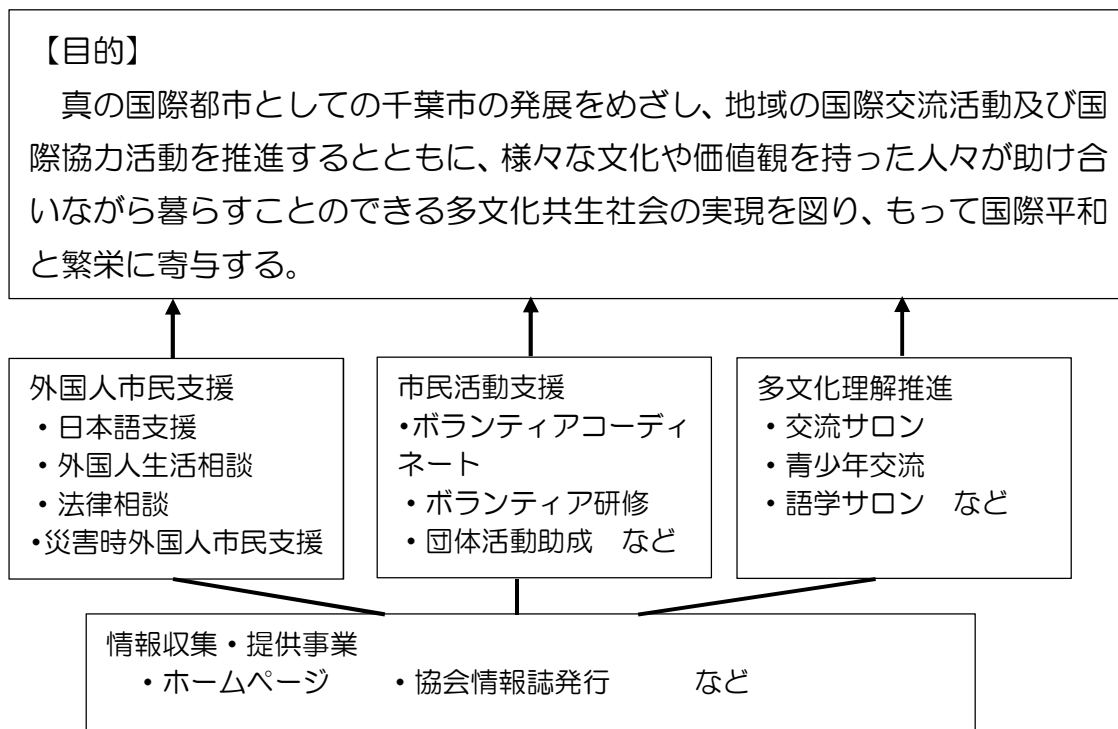
平成9年4月、財団法人千葉市国際交流協会入職。平成15年より平成22年度までボランティア斡旋(日本語学習支援)、日本語ボランティア講座などを担当。

平成25年度より再び日本語学習支援事業を担当。

平成22年度地域日本語教育コーディネーター研修受講。

<所属団体紹介>

【沿革】平成6年7月1日設立。平成24年4月1日公益財団法人へ移行。



## ＜活動内容＞

外国人住民の自律学習と社会参加、及び日本人住民の多文化理解をすすめるための日本語活動システムの充実

- 「外国人住民の社会参加促進」「対話型活動推進」という視点を日本語クラス、支援者研修に取り入れる。
- 1対1日本語活動のシステムの見直し、新規日本語クラスの設置、支援者研修の内容変更

## 1. 課題

日本語事業が外国人住民の社会参加を促す活動となっていない。

## 2. 課題解決のための方法と手順

手順	時期・内容	コーディネーターに求められる能力
1 問題把握と課題設定	平成 21～22 年度 多文化共生マスタープラン調査・作成 (外国人市民アンケート、関係機関ヒアリング) ----- 平成 25 年度～ 支援者研修アンケートから課題抽出	現状把握・課題設定 連携
2 支援者研修の内容変更	平成 25 年度～ 日本語を教える →支援のスキル	連携
3 協会内部全体で具体的に課題共有	平成 25 年度末～	現状把握・課題設定 ファシリテーション
4 文化庁委託事業の実施	平成 26 年度～ 支援者研修の充実、新規日本語クラスでのモデル、 関係機関との連携・協働 ----- 委嘱コーディネーターとの連携・協議	リソースの把握・活用 ----- 連携
5 既存の日本語活動の見直し・新規日本語クラスの立ち上げ	平成 28 年度～ 新システム内容決定、既存日本語交流員へ説明、日本語交流員・外国人参加者へ活動推進 委嘱コーディネーターとの連携、新しい日本語クラス実施での日本語交流員との連携 ----- 他の先進例の研究、委嘱コーディネーターとの協議	ファシリテーション 連携 リソースの把握・活用 ----- 方法の開発 リソースの把握・活用

## 3. 成果

- ①文化庁委託事業実施により、「外国人住民の社会参加促進」「対話型活動推進」というコンセプトが徐々に浸透し始めた。また、各関係機関との連携が生まれ始めた。
- ②新しい1対1活動と新しい日本語クラスが稼働しはじめ、外国人住民の社会参加を促す活動が広がりつつある。

## 4. 今後の課題

- ①日本語交流員・外国人参加者からの声を聞き、システムの定期的な検証を行う
- ②多くの人が実践しやすいよう、活動のモデルと資料を作る
- ③外国人参加者へ活動の意義を伝え、自律学習を促す